

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立有田中央高等学校清水分校	戸川しをり
学校所在地		
〒 643 - 0521 和歌山県有田郡有田川町清水 1 0 2 8 tel 0737 (25) 0055 fax 0737 (25) 1305		
担当者名	役職名・担当教科	
森井 啓宏	教諭・生徒活動部長	
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は有田郡有田川町清水（旧清水町）にある。昭和24年県立吉備高等学校八幡分校として開校する。昭和40年校名改称して吉備高等学校清水分校、また、平成9年には現在の有田中央高等学校清水分校となる。</p> <p>高台にある本校下を国道480号線が通る。清水地区を通り抜けるには車で1時間近くかかり、広くて小さな町である。少子高齢化が進み、本年度は3学年で生徒は6名の山の分校である。地元の保育園、小・中学校との交流、障害者「ふれあいキャンプ」への参加、京都大学研究林の「森林ウォーク」体験、清水山椒をJR白浜駅前PR活動（予定）、高齢者福祉センター「介護体験」等々に積極的に参加し、自然体験や社会体験を通じて、「ものを育てる心・思いやりの心」「望ましい自然環境・社会環境作りができる力」を育成するために取り組んでいる。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年1・2・3年生 6名	教職員 8名	世界遺産熊野本宮館・熊野参詣道（三軒茶屋跡～熊野本宮大社）
実践研究テーマ		
世界遺産を通して地域の歴史文化を学ぶ		
実践教科等名	単元名	
総合学習	世界遺産熊野参詣道研修	
<p>〔キーワード〕</p> <p>世界遺産 郷土学習 地域学習</p>		
<p>〔単元目標〕</p> <p>① 「紀伊山地の霊場と参詣道」等に関する基本的な知識について学ぶ。</p> <p>② 自然と人間の営みが長い時間をかけて作りあげてきた特別な意味のある景観について理解する。講習や現地学習を通して熊野古道の魅力を体験的に学び、その魅力や価値を理解する。</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 5 時間 （「世界遺産講座 現地学習 学校にて感想」 5 時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>① 和歌山県世界遺産センター … 世界遺産講座</p> <p>② 世界遺産マスター … 現地学習の案内・説明</p>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	世界遺産講座（世界遺産センター）	世界遺産センターの金井先生から、世界遺産の歴史や「紀伊山地の霊場と参詣道」の概要、世界遺産に登録された経緯について説明を受けた。	観察 ワークシート
2	大斎原を見学	昼休みに時間があつたので、大斎原がこの場所に移転した経緯や鳥居の大きさなど知ることができた。	観察
3	現地学習（三軒茶屋跡～熊野本宮大社）	世界遺産マスターの説明を受けながら、三軒茶屋～熊野本宮大社の約3kmを歩き、最後に参拝した。	観察
4	振り返り（学校）	現地学習の翌日、世界遺産について学んだことを振り返り、感想文を書いた。	感想文
5			
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは遠くにあつた世界遺産を身近に感じ、郷土の誇りに思うことができた。 ・歴史・地理・文化・観光・産業などについて学び、歴史観、宗教観などを深めることができた。 ・体験や学習したことを振り返り、まとめることで表現力・創造力に大きな効果があつた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が遠方で往復に時間を要するために、本当はもっと熊野古道は長い距離を歩きたいが、それが難しいこと。 ・これを機会に過疎化する本校地域の遺産や文化の価値観を見直し、地域貢献に取り組む姿勢を育てたい。 			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>日常生活では世界遺産に触れるという機会はなく、世界遺産について考えることも少ない。世界遺産のことを知るだけでなく、「なぜ世界遺産ができたのか」「世界遺産とはどういうものなのか」など知識を深めることができた。また、現地学習にて世界遺産を体感することで、その地域や歴史についても深く学べ、さらには自然保護や環境維持に関する問題についても、考えることができた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>世界遺産センターを訪ね、充実している施設・資料・その他情報にも興味を持ちました。ボランティア活動による道普請の取り組みが全国ネットであること、外国の人の訪問が多いことなどにも驚きました。担当していただいた方々には大変お世話になりました。生徒たちも楽しい一日を過ごしたのだと思います。近い将来また、訪問したい場所と想っていることを期待しています。</p>			

様式 2

令和3年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

1年 山本 悠誠

僕たちは11月11日に和歌山県世界遺産センターと熊野古道に行きました。午前中は和歌山県世界遺産センターに行き、世界遺産の数や種類、参詣道について詳しく教えていただきました。世界遺産は世界に1154個あり、世界遺産の種類は三つあることが分かりました。それは「自然遺産」、「文化遺産」、「複合遺産」です。霊場は吉野・大峯、熊野三山、高野山などで参詣道（さんけいみち）は、大峯奥駈道、熊野参詣道、高野参詣道などがあります。文化的景観は山、森、川、滝、温泉、田園、町並みなどがあるそうです。午後の現地学習では、熊野古道はその距離約三百キロだそうで、普通の人が歩くと約二週間かかり、貴族が歩くと約三週間かかると知りました。僕たちが歩いた距離は2.9キロでしたが長く感じました。僕は熊野古道を歩いて、すごく貴重な体験ができたと思います。

2年 織本 芳維

11月11日に次世代育成事業で初めて熊野古道を歩くことになりました。まず世界遺産センターの金井さんからスライドを見ながら説明を聞き、世界遺産の登録が始まった経緯などを学習しました。僕はある程度知ってはいましたが、あらためて分かったことがたくさんありました。そして昼食後は現地学習でした。世界遺産マスターの方の説明を受けながら歩きました。自分は昔の人の気持ちになって歩いてみることにしました。今回はほんの少しの距離でしたが、京都から本宮までの長距離を昔の人が歩いたなんて信じられません。最後に本宮大社で参拝を済ませ、学校に帰りました。



3年 織本 麻湖

日本には世界遺産が23件あります。そのうちの一つが『紀伊山地の霊場と参詣道』です。それは和歌山県、三重県、奈良県の三県にまたがります。標高は1000m～2000mで年間降水量は3000ミリを超える山岳地帯です。単なる「社寺と道」ではなく、あくまで「山岳信仰の霊場と山岳修行の道」であり、紀伊山地の自然がなければ文化的景観が成立しなかったそうです。文化的景観を守っていくために、単に社寺など文化財に指定されているものを保存するだけでなく、基盤となっている自然もその状態を維持することが大切であることを学びました。

3年 北村 千彩

世界遺産登録が始まったきっかけは、ヌビア遺跡群がダム建設のために沈んでしまいそうになった時、世界各国がそれを守ろうとした出来事があったからだと言われています。世界遺産には「文化遺産」、「自然遺産」、「複合遺産」の三つの種類があり、「紀伊山地の霊場と参詣道」は文化遺産にあたります。参詣道がまたがり、霊場が数多く存在する和歌山、奈良、三重は自然崇拜、仏教、修験道が互いに影響し合いながら、発展してきました。文化遺産という枠組みで見ると、欧州では古城などの建築物が多く登録され評価されているのに対し、「紀伊山地の霊場と参詣道」は信仰の山々や森、棚田、ブドウ畑、庭園などの文化的景観が主役として登録されていることを考えると世界的にも類を見ない資産といえます。私も現地を歩き、自然と人の融合した文化や歴史を肌で触れることができ嬉しかったです。

3年 森本 千晴

今回、世界遺産である大斎原、熊野本宮大社、熊野古道を巡りました。熊野本宮大社は何回か来たことがありましたが、大斎原や熊野古道は初めてでした。大斎原は元の世界遺産であった明治二十二年八月に水害で流されたため、現在は五百メートルほど離れた場所に、建てられました。とても静かなところだという印象でした。現地学習では、世界遺産マスターの方に熊野古道について詳しく教えていただきました。道普請と言って参加者等の方たちが、歩きやすいように道を修理してくれていることも説明で分かりました。みんなが協力して熊野古道を守っていることに気付かされました。